

外国語科学習指導案

1. 履修単位 3 単位
2. 実施日時 令和 3 年 9 月 28 日（火） 第 3 時限
3. 学 級 1 年 3 組（40 名）
4. 使用教科書 Power On English Communication I（東京書籍）
5. 単 元 名 Lesson 4 *Kawaii* and Japanese Pop Culture
6. 単元設定の理由

○題材観

本単元では、「カワイイ」というキーワードから切り込み、世界中の人々がどのように現代日本のポップカルチャー（大衆文化）をとらえているかという点に焦点を当てている。身近な日本文化が世界中で受け入れられているという事実を通して、彼らがどのような点から日本を理解しているのかを知り、自分自身がその文化の発信者であるということを理解した上で、自分が発信したい日本文化について考えさせたい。また、It is[was]+形容詞+ to 不定詞を用いて自分の考えを述べたり、助動詞や関係代名詞を用いて自分の考えを効果的に伝えたりする表現を身につけさせるのに適した題材である。

○指導観

本単元は、本文の内容理解をもとに、日本文化に対する理解を深め、その発信者として自らの考えを表現するのに適した内容となっている。そこで、「CAN-DO リスト」の「書くこと①」に関する指導と位置付け、簡単な英語を用いて相手に伝える表現方法に焦点を当てた指導を行う。考えが思い浮かばず書くことができないという状況にならないよう、事前に情報収集を行う時間を設けたり、例文を提示したりするなどして、知識や言語材料を十分に持たせてから書く活動に取り組ませ、グループでその考えを共有することで理解を深め合う言語活動を目指したい。

7. 単元の主な目標

- (1) 日本のポップカルチャー（大衆文化）が世界中の人々にどのように理解されているかを知る。
- (2) 自分自身が伝えたい日本文化について考え、その理由を簡単な英語で書くことができる。

「CAN-DO リスト」の形での学習到達目標との関連→「書くこと①」

- (3) It is[was]+形容詞+ to 不定詞、助動詞、関係代名詞を用いた文の構造と意味を理解する。

8. 単元の評価規準

ア コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ 外国語表現の能力	ウ 外国語理解の能力	エ 言語や文化についての知識・理解
海外での「カワイイ」という日本語の使われ方や日本のポップカルチャーに関心を持ち、意欲的に聞いたり読んだりしている。	Japan Expo について理解したことをもとに、自分の意見を積極的に書くことができる。	海外での「カワイイ」という日本語の使われ方や日本のポップカルチャーについて聞いたり読んだりしたことを理解したり、概要や要点をとらえたりすることができる。	① It is[was]+形容詞+ to 不定詞を用いた文の構造と意味を理解している。 ②助動詞を用いた文の構造と意味を理解している。 ③関係代名詞を用いた文の構造と意味を理解している。

9. 指導と評価の計画

時間	ねらい	本課の評価規準	評価方法
1	本課で学習する内容の概要をとらえる。	ア	後日ペーパーテスト
2	Part 1 を読み、内容を理解する。	ウ	後日ペーパーテスト
3	Part 2 を読み、内容を理解する。	ウ	後日ペーパーテスト
4	Part 3 を読み、内容を理解する。	ウ	後日ペーパーテスト
⑤	伝えたい日本文化について、書くことを通して考える。	ア・イ	活動の観察
6	前時の内容を発表する。	イ	活動の観察
7	本課で取り上げられた文法事項について理解する。	エの①②③	後日ペーパーテスト
後日	<ペーパーテスト> ◇ It is[was]+形容詞+ to 不定詞を用いた文の構造や意味についての理解をみる問題 ◇ 助動詞を用いた文の構造や意味についての理解をみる問題 ◇ 関係代名詞を用いた文の構造や意味についての理解をみる問題	エの① エの② エの③	ペーパーテスト ペーパーテスト ペーパーテスト

○は本時

10. 「CAN DO リスト」の形での学習到達目標（第1学年）

話すこと		書くこと		聞くこと		読むこと	
学習到達目標	評価	学習到達目標	評価	学習到達目標	評価	学習到達目標	評価
①簡単な挨拶や自己紹介、身近な話題についての簡単なスピーチができる。 ②教師や ALT の質問に、簡単な単語や会話表現で答えることができる。 ③聞き手に伝わるようにアイコンタクトを取り、身振り、表情も使って、表現することができる。	<u>コミュ英 I</u> ・スピーチ ・インタビューテスト <u>英表 I</u> ・スピーチ	①身近な話題について、事実や自分の考えを簡単な英語で書くことができる。 ②学習した単語や構文、表現を使って、短文を書くことができる。	<u>コミュ英 I</u> ・スピーチ ・定期考査 ・課題の提出 <u>英表 I</u> ・定期考査・スピーチ	① ALT がゆっくり話す内容を理解できる。 ②既習の語句や内容を含んだ英文を聞いて、話の概要や要点、必要な情報をとらえることができる。	<u>コミュ英 I</u> ・リスニングテスト ・インタビューテスト	①教科書本文について、情報や考えなどの概要をとらえることができる。 ②教科書の本文について、基本的な文構造をおさえながら、その文の意味を理解できる。 ③教科書本文を聞き手に内容が伝わるように音読できる。	<u>コミュ英 I</u> ・定期考査 ・音読テスト

1 1. 本時（第 5 時）の指導過程

(1) 目標

伝えたい日本文化について、書くことを通して考える。

(2) 展開

時間	学習活動	指導上の留意点	学習活動における 具体の評価規準	評価方法
2 分	1 本時の内容を知る。	・ 明るい雰囲気づくりに努める。	ア	活動の観察
8 分	2 各 Part の音読をする。	・ 新出語句を中心に抜かれた本文を渡し、語句の定着を図る。		
10 分	3 本文内容の要約をする。	・ 教科書の写真を用いることにより、本文の内容に対して興味関心を持てるようにする。		
8 分	4 インターネットを用いて Japan Expo について具体的内容を調べる。	・ 信用性の高いウェブサイトを使用するよう、注意を促す。	イ	活動の観察
10 分	5 MetaMoJi Classroom を用いて調べた内容をグループ内で共有する。	・ グループ全員が共有する画面に書き込むよう声かけを行う。 ・ できる限り多くの情報を書き込むよう促す。		
5 分	6 自分自身が伝えたい日本文化について書く。	・ 用いる表現方法を提示することにより、円滑に作業が進むようにする。		
2 分	7 本時のまとめと次回の予告をする。	・ 肯定的なフィードバックを行うことにより、次回へのモチベーションを与える。		

「十分満足できる」と判断される状況	本文の内容について興味関心を持ち、Japan Expo について調べた内容をもとに、自らが日本文化の発信者であるという意識を持って、伝えたい日本文化について積極的に書こうとしている。
「おおむね満足できる」状況を実現するための具体的な指導	具体的な例を示し、簡単な英語で書くことが大切であることを伝え、苦手意識を持つ生徒に対しては個別に対応する。